

神崎町長賞

税を納めるといふこと

神崎町立神崎中学校三年

篠塚萌依

私は税についてあまり考えたことがありませんでした。しかし、私が毎日通っている学校や道路、身のまわりの危険から守ってくれる警察官や消防士など、すべて税金が使われていたのです。私は、このとき、皆さんの場面で活躍している、この税金という制度を日々意識するようになりました。考えてみると、税金と私たちの生活の関係は、すごく密接なものであったのです。

私の犬は先日、急性緑内障で両眼とも失明してしまいました。それをきっかけに私は獣医師になる、と強く心に決めました。獣医学部がある学校に通うためには、頭が良くなくては厳しい道のりだということを知りました。そのため私は、日々勉強を怠らずに、獣医師になるという目標に向かって頑張っています。

日々勉強するに当たって、私は様々な税金に支えられています。学校で使う教科書や、机など、学習環境の整備には多くの税金が使われています。また、私が住んでいる町では、税金で私たちの給食が賄われています。

す。

このように、多くの税金が費やされている恵まれた環境を、無駄にせず、感謝して生かしていきたいと思いました。

世の中には、税金を納めたくないと思っている人が多数います。調べてみると、国民の七十三・五パーセントが税のことを不満に思っているそうです。しかし、税金が無くなってしまふと、今のような生活ができなくなり、不便になってしまいます。

警察を呼んだり、消防車を呼んだりすることにお金が発生してしまいます。「別に、税金を納めても納めなくても、後々支払う料金は一緒なのでは？」と私は思いました。しかし、そこには確かな違いがあることに気が付きました。それは「思いやりの心」があるということです。

税金を納めるといふことは、誰かの役に立つ、ということなのです。それは誰かの教科書になるかもしれないし、私たちが走る道路になるかもしれません。このように私たちは、「人が人を思いやって完成した世界」

に住んでいるのです。たとえば、納税している人たちが、誰かのためを思っていていなくても、「税を納める」というのは、間違いなく誰かの役に立っているのです。だから、私はもっと税金を納めていることに対して誇りを持って良いと思いました。

先程言ったように、国民の過半数以上が、税について不満を感じている、つまりマイナスのイメージを持っています。私は、このような考え方ではなく、税金を納めるといふことは、今まで支えてくれたことへの恩返しという思いを込めて、納めていきたいと思えます。